

上川町におけるだいこんの収量安定化

～産地復活に向けた取り組み～

活動年次：令和6年

上川農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

対象：上川町大根生産組合（3戸・1法人）

○道内有数のだいこんの産地である上川町では近年低収傾向

○連作障害回避として新畑での栽培が低収要因の一つに！

<活動内容>

○だいこんの収量低下の要因解析
○土壌改良対策の効果検証と普及

<連携機関>

上川町大根生産組合、JA上川中央



2 活動の経過

Step 1 低収要因の解析



Step 2 実証ほの設置



Step 3 検討・実践



3 活動の成果 *****

◇実証ほの設置◇

土壤分析値からリン酸、加里を目標値まで改良

<は種30日目における生育差>

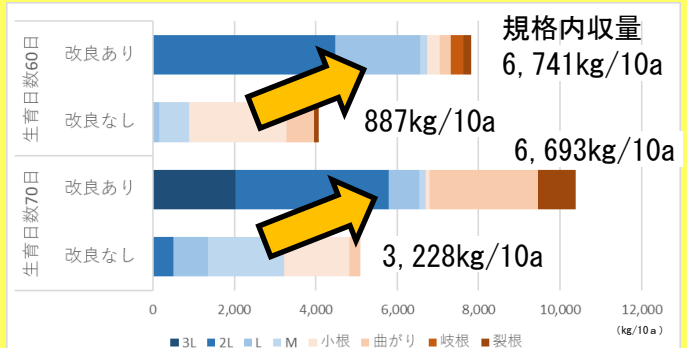


改良なし

改良有り

収量調査(生育60日・70日)、経済性を比較

<収量調査>



効果1 標準の生育期間60日で、十分に収量確保!

効果2 土壤改良により収量が大幅にUP!

◇経済性◇

(円/10a)

	販売金額		差 C A-B	土壤改良費 D	経済性 C-D
	改良あり A	改良なし B			
生育日数60日	1,026,199	107,572	918,627	67,295	851,332
生育日数70日	950,655	423,387	527,268		459,973

※販売金額：JA上川中央におけるR5年平均単価(3L:1236, 2L:1429, L:1620, M:1122円/10kg)

※土壤改良費ダブリン3913円/20kg、硫加3472円/20kg (JA上川中央R6肥)

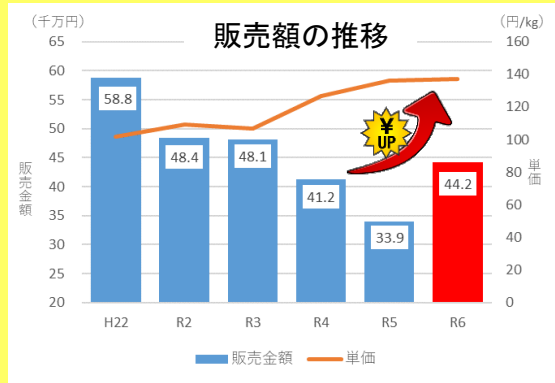
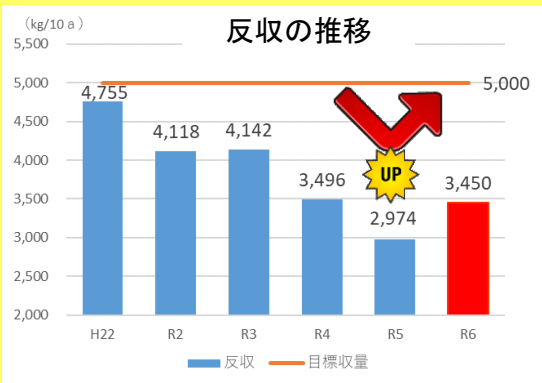
土壤改良により収量が増加し、土壤改良費を差し引いても大幅にプラスに!

◇実践と結果◇

実証ほの結果から、実証ほ設置以降の作付けほ場全てで土壤改良を実施

土壤改良実施面積 36ha(100ha中)

収量・販売金額がV字回復



4 今後の活動 *****

【土壤改良で、これまでよりも生育期間の短縮が見込まれ、以下の対策が課題となる】

- ①は種計画の見直し → 収穫開始から10日で収穫終了となる面積
- ②防除体系の見直し → 収穫前日数を考慮した薬剤選定
- ③施肥量の見直し → N4 kg/10aを目安に (現状N6 ~ 8 kg/10a)